

～給与勧告の仕組みと本年の勧告のポイント～

令和6年10月

奈良県人事委員会

- 1 給与勧告の対象職員
- 2 給与勧告の手順
- 3 民間給与との比較方法（ラスパイレス比較）
- 4 民間給与との較差①（月例給）
- 5 民間給与との較差②（ボーナス）
- 6 モデル給与例
- 7 給与勧告の実施状況
- 8 本年の勧告のポイント
- 9 給与制度のアップデート措置内容一覧

1 給与勧告の対象職員

本年の給与勧告対象職員（企業職員及び技能労務職員を除く。）は14,127人（※）であり、昨年より88人の減となっています（行政職については、3,478人で昨年より34人の増）。
また、対象職員の平均年齢は39.8歳で、昨年より0.2歳低下となっています（行政職については、昨年より0.5歳低下）。

| | 職員数(人) | | | 平均年齢(歳) | | |
|--------|--------|--------|------|---------|-------|-------|
| | R6年4月 | R5年4月 | 増減 | R6年4月 | R5年4月 | 増減 |
| 全職種 | 14,127 | 14,215 | △ 88 | 39.8 | 40.0 | △ 0.2 |
| 行政 | 3,478 | 3,444 | 34 | 40.7 | 41.2 | △ 0.5 |
| 公安 | 2,462 | 2,457 | 5 | 38.1 | 38.0 | 0.1 |
| 教育(二) | 1,978 | 2,022 | △ 44 | 41.3 | 42.1 | △ 0.8 |
| 教育(三) | 5,769 | 5,848 | △ 79 | 39.3 | 39.2 | 0.1 |
| 研究 | 202 | 205 | △ 3 | 41.5 | 42.3 | △ 0.8 |
| 医療(一) | 16 | 20 | △ 4 | 38.1 | 39.3 | △ 1.2 |
| 医療(二) | 92 | 92 | 0 | 43.6 | 44.3 | △ 0.7 |
| 医療(三) | 72 | 71 | 1 | 35.9 | 36.2 | △ 0.3 |
| 福祉 | 57 | 55 | 2 | 38.7 | 38.9 | △ 0.2 |
| 任期付研究員 | 1 | 1 | 0 | - | - | - |

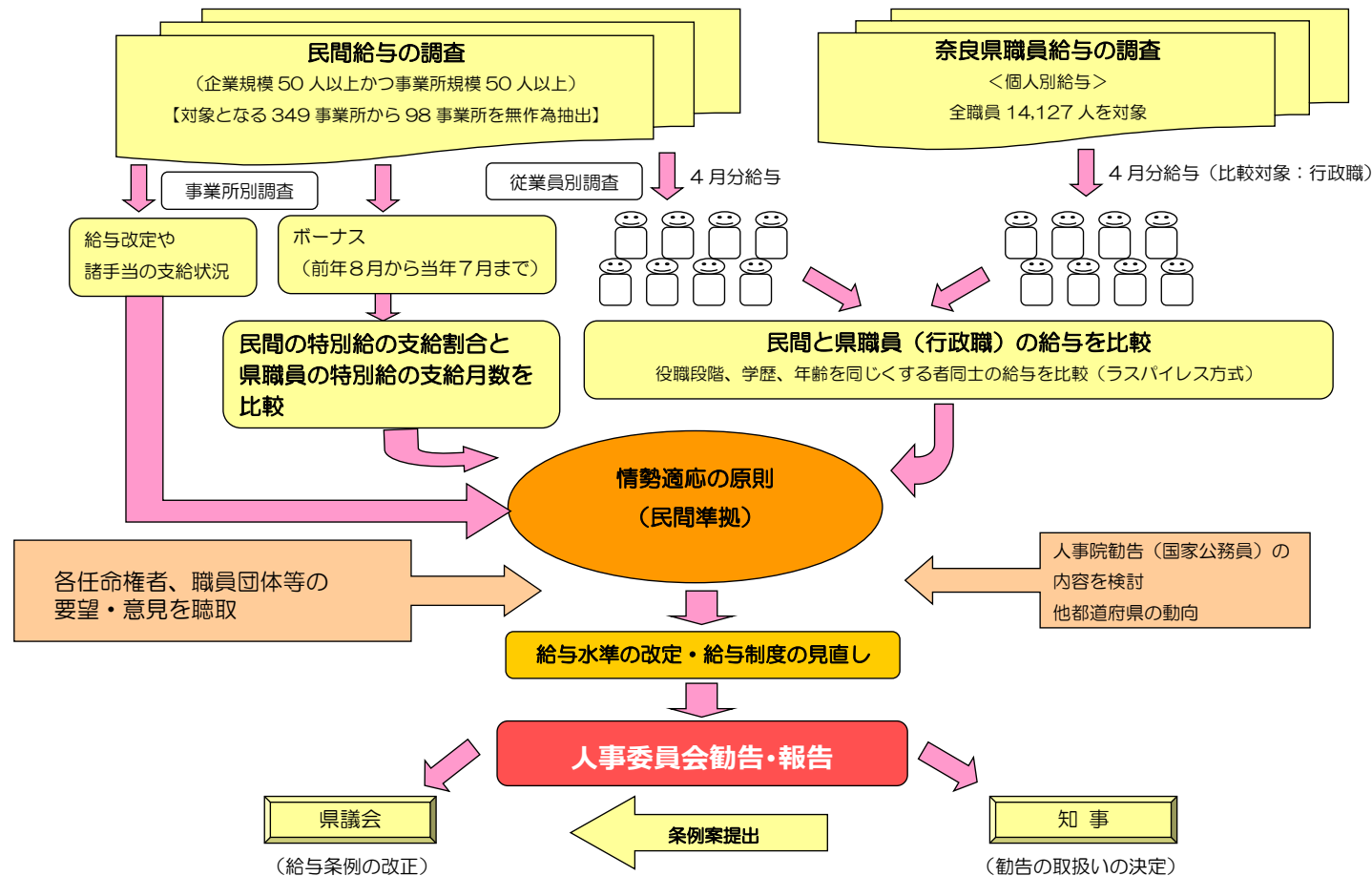
（令和6年4月1日現在）

（※）職員数は、勧告対象職員のうち、暫定再任用職員、定年前再任用短時間勤務職員、臨時的任用職員、会計年度任用職員及び定年が段階的に引き上げられることに伴い、一般職の職員の給与に関する条例附則第29項の規定により給料月額が決定される職員を除く人数である。

2 給与勧告の手順

奈良県人事委員会では、月例給については、奈良県職員と民間の4月分の給与（月例給）を調査した上で、精密に比較し、得られた較差を埋めることを基本に勧告を行っています。

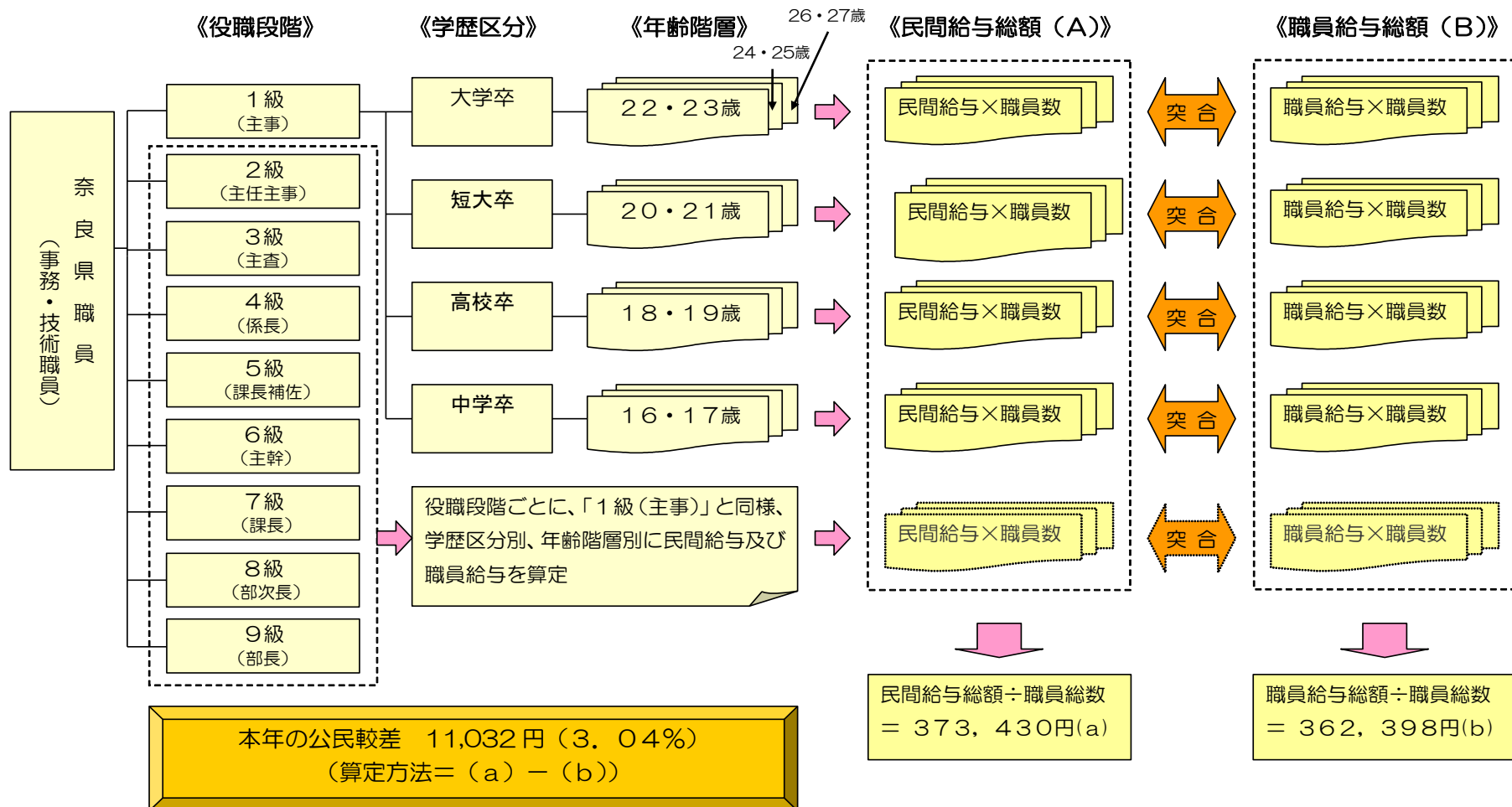
また、特別給についても、民間の特別給の直近1年間（前年8月から当年7月まで）の支給実績を調査した上で、民間の年間支給割合を求め、これに奈良県職員の特別給の年間支給月数を合わせることを基本に勧告を行っています。



3 民間給与との比較方法（ラスパイレス比較）

月例給の民間給与との比較（ラスパイレス比較）においては、個々の奈良県職員に民間の給与額を支給したとすれば、これに要する支給総額（A）が、現に支払っている支給総額（B）に比べてどの程度の差があるかを算出しています。

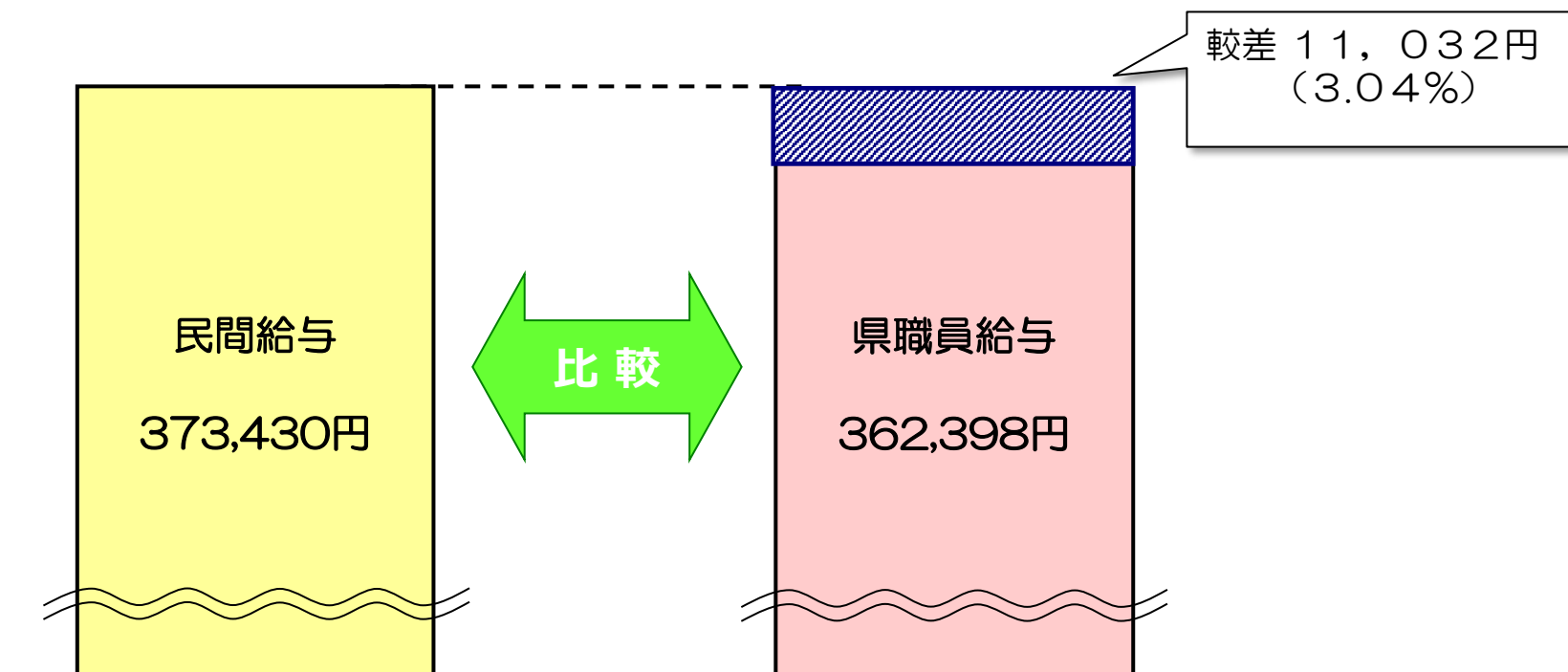
具体的には、以下のとおり、役職段階、学歴区分、年齢階層別の奈良県職員の平均給与と、これと条件を同じくする民間の平均給与のそれぞれに奈良県職員数を乗じた総額を算出し、両者の水準を比較しています。



4 民間給与との較差①（月例給）

本年の民間給与との較差 11,032円（3.04%）を解消するため、以下のとおり月例給の改定を行うこととしました。

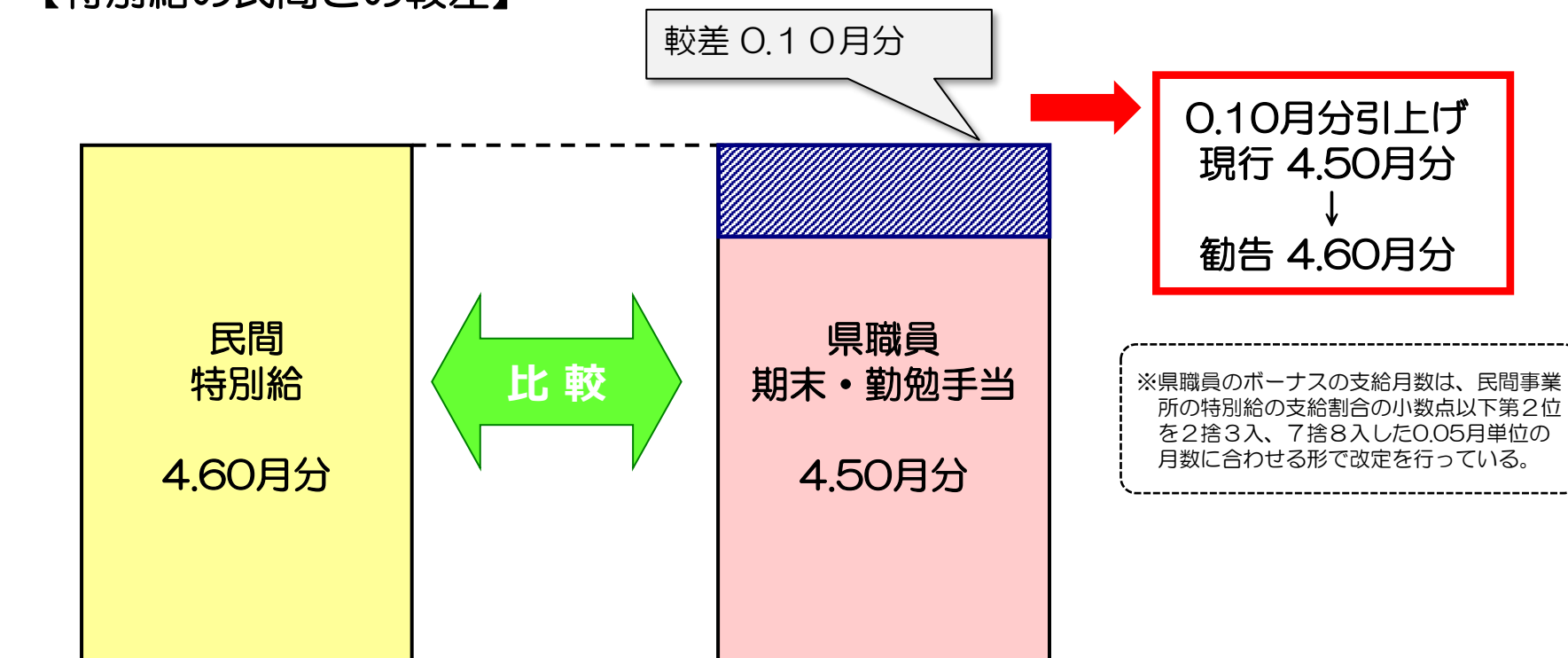
【月例給の民間との較差】



5 民間給与との較差②（特別給）

県内民間事業所の特別給の支給割合は4.60月分であり、県職員の期末・勤勉手当の年間平均支給月数4.50月分を上回っていることから、民間の特別給の支給割合との均衡を図るため、0.10月分引き上げ、4.60月分とすることとしました。

【特別給の民間との較差】



6 モデル給与例

| 区 分 | 年 齢 | 勧告前 | | 勧告後 | | 年間給与額の差 (円) |
|---------------|-----|-----------|-------------|-----------|-------------|----------------|
| | | 月額 (円) | 年間給与 (円) | 月額 (円) | 年間給与 (円) | |
| 主 事 (高卒新採) | 18歳 | 183,033 | 3,024,000 | 208,309 | 3,462,000 | 438,000 |
| 主 事 (大卒新採) | 22歳 | 216,770 | 3,581,000 | 241,617 | 4,016,000 | 435,000 |
| 主 事 | 25歳 | 233,263 | 3,854,000 | 255,112 | 4,240,000 | 386,000 |
| 主任主事 | 30歳 | 266,357 | 4,400,000 | 282,636 | 4,698,000 | 298,000 |
| 主 査 | 35歳 | 306,198 | 5,128,000 | 317,658 | 5,353,000 | 225,000 |
| 主 査 | 40歳 | 338,650 | 5,671,000 | 344,219 | 5,801,000 | 130,000 |
| 係 長 | 45歳 | 390,593 | 6,629,000 | 395,199 | 6,751,000 | 122,000 |
| 課長補佐 | 50歳 | 415,119 | 7,046,000 | 419,617 | 7,168,000 | 122,000 |
| 課 長 | — | 547,602 | 8,972,000 | 553,064 | 9,120,000 | 148,000 |
| 部次長 | — | 599,331 | 10,473,000 | 605,007 | 10,645,000 | 172,000 |
| 部 長 | — | 673,873 | 11,812,000 | 679,870 | 12,001,000 | 189,000 |

(注) モデル給与例の給与月額は、給料、管理職手当及び地域手当（下記参照）を基礎に算出。

○ 地域手当 : 本庁勤務 (7.1%)

○ 管理職手当 : 課長 (80,100円)、部次長 (103,700円)、部長 (128,900円)

7 給与勧告の実施状況

| 年 | 改定内容 | | 公民較差 | | 改定後 | | 期末・勤勉手当 | | | 平均年間給与 | |
|----|-----------|------------|--------|--------|--------|--------|----------|----------|--------|---------|--------|
| | ”+” プラス改定 | ”△” マイナス改定 | 額 円 | 率 % | 額 円 | 率 % | 改定前 月 | 改定後 月 | 差 月 | 額 円 | 率 % |
| | ”-” 改定なし | 特別給 | | | | | | | | | |
| 6 | + | + | 11,032 | 3.04 | 11,000 | 3.04 | 4.50 | 4.60 | 0.10 | 221,000 | 3.7 |
| 5 | + | + | 3,722 | 1.03 | 3,708 | 1.02 | 4.35 | 4.5 | 0.15 | 117,000 | 2.0 |
| 4 | + | + | 937 | 0.26 | 925 | 0.25 | 4.25 | 4.35 | 0.10 | 52,000 | 0.9 |
| 3 | - | △ | △39 | △0.01 | 0 | 0 | 4.40 | 4.25 | △0.15 | △57,000 | △0.9 |
| 2 | - | △ | △221 | △0.06 | 0 | 0 | 4.50 | 4.40 | △0.10 | △39,000 | △0.6 |
| R元 | + | + | 819 | 0.22 | 787 | 0.21 | 4.45 | 4.50 | 0.05 | 32,000 | 0.5 |
| 30 | + | + | 672 | 0.18 | 646 | 0.17 | 4.40 | 4.45 | 0.05 | 29,000 | 0.5 |
| 29 | + | + | 1,217 | 0.33 | 1,212 | 0.33 | 4.30 | 4.40 | 0.10 | 61,000 | 1.0 |
| 28 | + | + | 1,167 | 0.31 | 1,162 | 0.31 | 4.20 | 4.30 | 0.10 | 60,000 | 1.0 |
| 27 | + | + | 1,548 | 0.41 | 1,546 | 0.41 | 4.10 | 4.20 | 0.10 | 63,000 | 1.0 |
| 26 | + | + | 892 | 0.23 | 875 | 0.23 | 3.95 | 4.10 | 0.15 | 72,000 | 1.2 |

8 本年の勧告のポイント

3年連続で月例給、ボーナスともに引上げ

1 月例給

- 民間給与との較差 11,032円 (3.04%)
- 公民較差解消のため、初任給を始め若年層に重点を置いて月例給を引上げ

2 期末手当・勤勉手当（ボーナス）

- 民間の支給割合（4.60月分）との均衡を図るため、支給月数を0.10月分引上げ
- 年間支給月数 4.50月分→4.60月分
- 民間の支給状況等を踏まえ、期末手当及び勤勉手当を均等に配分

3 実施時期

月例給：令和6年4月1日

期末手当・勤勉手当（ボーナス）：令和6年12月1日

※ 勧告後の平均給与（行政職給料表） 月額 373,398円 年額 6,208,000円
(+11,000円) (+221,000円)

9 給与制度のアップデート措置内容一覧

給料

- ・新卒初任給や若年層の給料月額を大幅に引上げ
採用市場での競争力のある水準に
- ・主査級～本庁課長級の給料月額の最低水準を引上げ
早期昇格時や民間人材等の採用時の給与を改善
- ・本庁部次長級及び本庁部長級について、職責重視の体系に刷新
重い役割に見合う処遇を確保
 - 給料月額の最低水準引上げ、隣接する級間の給料月額の重なり
解消などにより、昇格時に給与が大きく上がる仕組みに
 - 成績優秀者は昇給により更に大きな給与上昇を確保

地域手当

- ・国や他の都道府県の動向等を踏まえた見直しについて、引き続き検討が必要
支給地域等及び支給割合(%)一覧

| 支給地域等 | 県現行 支給割合 | 国現行 支給割合 | 国見直し後支給割合 | |
|---|-------------|-------------|-----------|------------|
| | | | 令和7年度 | 令和10年度(完成) |
| 東京都の特別区 | 16.1 | 20 | 20 | 20 |
| 奈良市 大和郡山市 | 7.1 | 10 | 9 | 8 |
| 天理市 | 6.1 | 12 | 11 | 8 |
| 大和高田市 橿原市 生駒市 香芝市 葛城市 生駒郡平群町 生駒郡三郷町 生駒郡斑鳩町 生駒郡安堵町 北葛城郡 上牧町 北葛城郡王寺町 北葛城郡広陵 町 北葛城郡河合町 | 6.1 | 6 | 5 | 4 |
| 桜井市 御所市 宇陀市 磯城郡川西町 磯城郡三宅町 磯城郡田原本町 | 5.1 | 3 | 3 | 4 |
| 上記以外 | | 0 | 2 | 4 |
| 医療職給料表(一)適用職員 | 16 | 16 | 16 | 16 |

※令和7年度の県の地域手当は、現行の支給割合を維持することが適当

その他諸手当

- ・初任給調整手当の引上げ等により、獣医師の継続的・安定的な人材確保につなげる
- ・通勤手当の支給限度額を1か月当たり15万円に引上げ。非課税限度額まで全額支給し、新幹線通勤や遠距離通勤者の自己負担を解消
- ・人事配置の円滑化を図る観点から新幹線等に係る通勤手当の支給要件を緩和
- ・単身赴任手当を採用時から支給可能に
- ・管理職の平日深夜勤務に対する手当の支給対象時間帯を拡大。緊急対応等の勤務実態に応じた処遇を確保
- ・配偶者に係る扶養手当を廃止し、子に係る扶養手当を充実

ボーナス

- ・特定任期付職員にも勤勉手当支給
勤務成績を適時に反映し、優秀な専門人材の年収増を可能に

再任用職員

- ・異動に資する手当(住居手当、特地勤務手当等)を支給
多様な人事配置での活躍を支援

※令和7年4月から実施(地域手当及びその他諸手当のうち初任給調整手当にかかるものを除く。)

ただし、初任給や若年層の給料月額の引上げは、令和6年4月から先行実施